

# 夢への一歩 米で



松本秀峰5年佐藤さん 民間派遣で滞在へ

## 世銀訪問、現地高校生と交流も

松本市の松本秀峰中等教育学校5年（高校2年相当）の佐藤友哉さん（16）が、民間企業の渡米プログラムで7月下旬から3週間、米国に滞在し、現地の高校生らと交流する。日本文化を紹介する発表会で県外の高校生とチームを組み、食文化を伝える。世界銀行なども訪れる予定で、趣味の鉄道などを通して海外の経済開発支援に携わる夢を持つ佐藤さんは「働いている人と直接話してみたい」と楽しみにしている。

AIG損害保険（東京）などが1987年から続ける社会貢献事業。渡米プログラム（定員40人）と、日本を訪れた米国の高校生と交流する日本プログラム（同20人）がある。約8000人の応募者から、県内では渡米プログラムの参加者に、佐藤さんと長野市の長野高校3年の薛孝豊さん（17）が選ばれた。

佐藤さんは、ワシントンの民間企業の渡米プログラムに参加する佐藤さん

米国務省やニューヨークの国連本部などを訪れ、担当者との意見交換する予定。その後、現地の高校生とプリンストン大の大学寮で10日間共同生活し、互いの文化を紹介する発表会などに参加する。

沖縄県や奈良県などの生徒4人とチームを組み、海外でも人気の日本のラーメンについて発表する計画だ。毎週末、インターネット電話「スカイプ」を使い、参加者同士で発表内容などを議論。話し合いが深夜に及ぶこともあるという。佐藤さんは「現地の高校生が『えーっ』と驚くような内容にしたい」と意気込む。薛さんは将来、インターネット技術を活用し、社会に役立つ事業に取り組みたいと考えており、米国の大学への進学を目指している。「世界一のプログラマー」が夢で、大学や企業を見学し「雰囲気を感じてきたい」と話している。